

SN-US020190

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of :
Ken'ichi SUGAWARA :
Serial No.: NEW :
Filed: Herewith :
For: SPINNING-REEL SOUNDING MECHANISM:

CLAIM FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C. §119

The Assistant Commissioner of Patents
Washington, DC 20231

Sir:

Under the provisions of 35 U.S.C. §119, Applicant files herewith a certified copy of Japanese Application No. 2002-246462, filed August 27, 2002, in accordance with the International Convention for the Protection of Industrial Property, 53 Stat. 1748. Applicant hereby claims priority under 35 U.S.C. §119 in accordance with the International Convention for the Protection of Industrial Property, 53 Stat. 1748.

Respectfully submitted,



Yoshio Miyagawa
Reg. No. 43,393

SHINJYU GLOBAL IP COUNSELORS, LLP
1233 Twentieth Street, NW, Suite 700
Washington, DC 20036

(202)-293-0444

Dated: Jul 1 / 03

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 8月27日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-246462

[ST.10/C]:

[JP2002-246462]

出 願 人

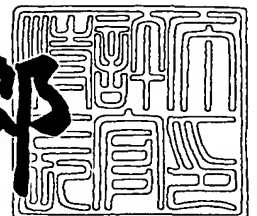
Applicant(s):

株式会社シマノ

2003年 2月12日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3006429

【書類名】 特許願

【整理番号】 SN020190P

【提出日】 平成14年 8月27日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A01K 89/01

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府堺市深井清水町 2 0 9 0 - 4 アミニティ I 4
1 3 号

【氏名】 菅原 謙一

【特許出願人】

【識別番号】 000002439

【氏名又は名称】 株式会社シマノ

【代理人】

【識別番号】 100094145

【弁理士】

【氏名又は名称】 小野 由己男

【連絡先】 0 6 - 6 3 1 6 - 5 5 3 3

【選任した代理人】

【識別番号】 100109450

【弁理士】

【氏名又は名称】 關 健一

【選任した代理人】

【識別番号】 100111187

【弁理士】

【氏名又は名称】 加藤 秀忠

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 020905

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 スピニングリールの発音機構

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

鍛造により形成された金属製のスプールとスプール軸との相対回転により発音するスピニングリールの発音機構であって、

前記スプールの後端部に装着された合成樹脂製の取付台と、

前記取付台に装着された第 1 発音部と、

前記スプール軸に装着され、前記第 1 発音部との相対回転により発音する第 2 発音部と、

を備えたスピニングリールの発音機構。

【請求項 2】

前記取付台は前記スプールの後端部にねじ止め固定される、請求項 1 に記載のスピニングリールの発音機構。

【請求項 3】

前記取付台は前記スプールの内周に沿って形成された円弧状部材である、請求項 1 又は 2 に記載のスピニングリールの発音機構。

【請求項 4】

前記第 1 発音部は前記第 2 発音部方向に付勢されて設けられた爪部材であり、

前記第 2 発音部は、前記第 1 発音部と対向する面に配置され、周方向に間隔を隔てて形成された複数の凹凸部を有し、前記爪部材の先端が前記凹凸部に当接を繰り返して発音する円板部材である、請求項 1 から 3 のいずれかに記載のスピニングリールの発音機構。

【請求項 5】

前記爪部材は前記取付台に設けられたばね部材により付勢されている、請求項 4 に記載のスピニングリールの発音機構。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、スピニングリールの発音機構、特に、スプールとスプール軸との相対回転により発音する発音機構に関する。

【0002】

【従来の技術】

一般に、スピニングリールは、ハンドルを回転自在に支持するリール本体と、ロータと、スプール軸に回転可能に装着されたスプールとを備えている。スピニングリールのスプールは、リール本体に対して前後移動自在であり、外周に釣り糸が巻き付けられる糸巻胴部と、糸巻胴部の後端部に設けられた大径筒状のスカート部とを備えている。糸巻胴部及びスカート部は、金属製であり、たとえば鍛造により一体成形されている。また、フロントドラグ型のスピニングリールでは、糸巻胴部の内部には、複数のドラグ板からなるドラグ機構や、ドラグ機構作動時に発音する発音機構等を有している。

【0003】

このような発音機構は、たとえば糸巻胴部の後端部に装着された爪部材と、スプール軸に回転不能に固定され周方向に間隔を隔てて複数の凹凸部が形成された円板部材とを有し、糸巻胴部とスプール軸との相対回転によって、爪部材の先端が凹凸部に当接を繰り返して発音するようになっている。このような爪部材は、糸巻胴部の後端に圧入されたピン部材に、たとえばプッシュナット等を装着することによって固定されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

前記従来のスピニングリールの発音機構は、特に鍛造により形成された糸巻胴部では、爪部材装着用のピン部材を圧入するために、糸巻胴部の内部に厚肉部を設ける必要がある。このように、糸巻胴部に厚肉部を設けると、糸巻胴部の質量が増加し、スピールの軽量化を損なうおそれが生じる。

【0005】

本発明の課題は、スピニングリールの発音機構において、スピールを軽量化することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】

発明 1 に係るスピニングリールの発音機構は、鍛造により形成された金属製のスプールとスプール軸との相対回転により発音するスピニングリールの発音機構であって、スプールの後端部に装着された合成樹脂製の取付台と、取付台に装着された第 1 発音部と、スプール軸に装着され第 1 発音部との相対回転により発音する第 2 発音部とを備えている。

【0007】

このスピニングリールの発音機構では、鍛造により形成された金属製のスプールに合成樹脂製の取付台が装着されている。ここでは、合成樹脂製の取付台が装着されているので、従来のようにピン部材を圧入するための厚肉部をスプールに設ける必要がなくなり、スプूलを軽量化できる。

発明 2 に係る発音機構は、発明 1 の発音機構において、取付台はスプールの後端部にねじ止め固定される。この場合、取付台をスプールに取り付けるためにピン部材をスプールに設けなくてもよいので、さらにスプूलを軽量化できる。

【0008】

発明 3 に係る発音機構は、発明 1 又は 2 の発音機構において取付台はスプールの内周に沿って形成された円弧状部材である。この場合、取付台をスプールにコンパクトに配置できる。

発明 4 に係る発音機構は、発明 1 から 3 の発音機構において、第 1 発音部は第 2 発音部方向に付勢されて設けられた爪部材であり、第 2 発音部は第 1 発音部と対向する面に配置され周方向に間隔を隔てて形成された複数の凹凸部を有し爪部材の先端が凹凸部に当接を繰り返して発音する円板部材である。この場合、容易な構造で確実に発音させることができる。

【0009】

発明 5 に係る発音機構は、発明 4 の発音機構において、爪部材は取付台に設けられたばね部材により付勢されている。この場合、安価な構成で、爪部材を凹凸部に繰り返し当接させることができる。

【0010】

【発明の実施の形態】

本発明の一実施形態を採用したスピニングリールは、図 1 に示すように、フロントドラグ型のリールであって、ハンドル 1 を回転自在に支持するリール本体 2 と、ロータ 3 と、スプール 4 とを備えている。ロータ 3 はリール本体 2 の前部に回転自在に支持されている。スプール 4 は、釣り糸を外周面に巻き取るものであり、ロータ 3 の前部に前後移動自在に配置されている。

【 0 0 1 1 】

リール本体 2 は、リールボディ 2 a と、リールボディ 2 a から斜め上前方に延びる竿取付脚 2 b とを有している。リールボディ 2 a は、図 2 に示すように、内部に空間を有しており、その空間内には、ロータ 3 をハンドル 1 の回転に連動して回転させるロータ駆動機構 5 と、スプール 4 を前後に移動させて釣り糸を均一に巻き取るためのオシレーティング機構 6 とが設けられている。

【 0 0 1 2 】

ロータ駆動機構 5 は、ハンドル 1 が固定されたハンドル軸 1 0 とともに回転するマスターギア 1 1 と、このマスターギア 1 1 に噛み合うピニオンギア 1 2 とを有している。ピニオンギア 1 2 は筒状に形成されており、その前部は、ロータ 3 の中心部を貫通し、ナットによりロータ 3 と固定されている。ピニオンギア 1 2 は、その軸方向の中間部と後端部とが、それぞれ軸受を介してリール本体 2 に回転自在に支持されている。

【 0 0 1 3 】

オシレーティング機構 6 は、スプール 4 の中心部にドラグ機構 6 0 を介して連結されたスプール軸 1 5 を前後方向に移動させてスプール 4 を同方向に移動させるための機構である。オシレーティング機構 6 は、スプール軸 1 5 の下方に平行に配置された螺軸 2 1 と、螺軸 2 1 に沿って前後方向に移動するスライダ 2 2 と、螺軸 2 1 の先端に固定された中間ギア 2 3 とを有している。スライダ 2 2 にはスプール軸 1 5 の後端が回転不能に固定されている。中間ギア 2 3 は図示しない減速ギアを介してピニオンギア 1 2 からの回転が伝達されるようになっている。

【 0 0 1 4 】

ロータ 3 は、図 2 に示すように、円筒部 3 0 と、円筒部 3 0 の側方に互いに対向して設けられた第 1 ロータアーム 3 1 及び第 2 ロータアーム 3 2 とを有してい

る。円筒部 3 0 と第 1 ロータアーム 3 1 及び第 2 ロータアーム 3 2 とは、たとえばアルミニウム合金製であり、一体成形されている。

第 1 ロータアーム 3 1 は、円筒部 3 0 から外方に凸に湾曲して前方に延びており、円筒部 3 0 との接続部分は円筒部 3 0 の周方向に広がり湾曲している。第 1 ロータアーム 3 1 の先端の外周側には、第 1 ベール支持部材 4 0 が揺動自在に装着されている。第 1 ベール支持部材 4 0 の先端には、釣り糸をスプール 4 に案内するためのラインローラ 4 1 が装着されている。

【 0 0 1 5 】

第 2 ロータアーム 3 2 は、円筒部 3 0 から外方に凸に湾曲して前方に延びている。第 2 ロータアーム 3 2 は、先端部から円筒部 3 0 との接続部分に向けて 2 股に分岐しており、円筒部 3 0 と周方向に間隔を隔てた 2 箇所で接続されている。第 2 ロータアーム 3 2 の先端外周側には、第 2 ベール支持部材 4 2 が揺動自在に装着されている。

【 0 0 1 6 】

ラインローラ 4 1 と第 2 ベール支持部材 4 2 との間には線材を略 U 状に湾曲させた形状のベール 4 3 が固定されている。これらの第 1 ベール支持部材 4 0 及び第 2 ベール支持部材 4 2、ラインローラ 4 1 及びベール 4 3 により釣り糸をスプール 4 に案内するベールアーム 4 4 が構成される。ベールアーム 4 4 は、図 2 に示す糸案内姿勢とそれから反転した糸開放姿勢との間で揺動自在である。

【 0 0 1 7 】

スプール 4 は、ロータ 3 の第 1 ロータアーム 3 1 と第 2 ロータアーム 3 2 との間に配置されており、スプール軸 1 5 の先端にドラグ機構 6 0 を介して装着されている。スプール 4 は、図 3 に拡大して示すように、スプール本体 7 と、スプール本体 7 の前端部に取り付けられた大径の前フランジ部 8 と、前フランジ部 8 をスプール本体 7 に固定するための前フランジ部固定部材 9 とを有している。スプール本体 7 は、鍛造により形成された金属製部材であり、外周に釣り糸が巻かれる筒状の糸巻胴部 7 a と、糸巻胴部 7 a の後端部に一体成形された大径筒状のスカート部 7 b とを有している。また、糸巻胴部 7 a の後端部には、図 3 及び図 4 に示すように、釣り糸の先端部分を係止するための釣り糸係止部 5 0 がねじ部材

20dにより固定されている。さらに、糸巻胴部7aの後端部には、スプール4とスプール軸15との相対回転によって発音する発音機構70が取り付けられている。

【0018】

発音機構70は、図3及び図4に拡大して示すように、糸巻胴部7aの後端部に装着された合成樹脂製の取付台16と、糸巻胴部7aの後端部にスプール軸15に回転不能に固定された円板部材17（第2発音部の一例）と、取付台16に円板部材17と相対回転可能に装着された爪部材18（第1発音部の一例）と、取付台16に装着され爪部材18を円板部材17側に付勢するばね部材19とを有している。ここでは、スプール4とスプール軸15との相対回転によって、爪部材18が円板部材17に当接して発音するようになっている。

【0019】

取付台16は、図3から図6に示すように、合成樹脂製部材であって、糸巻胴部7aの後端部の内周に沿って形成された円弧状部材である。取付台16の両端部は、図4及び図6に示すように、糸巻胴部7aの後端部にねじ部材20a、20bによってねじ止め固定されている。取付台16の中央部には、図3から図5に示すように、爪部材18装着用のボス部16aが立設されている。爪部材18はボス部16aにプッシュナット20cによって固定されている。

【0020】

円板部材17は、図3から図6に示すように、糸巻胴部7aの後端部にワッシャ15aを介して接触するようにスプール軸15に回転不能に固定されている。円板部材17は、糸巻胴部7aが後方へ移動するのを規制するスプール受けとして機能している。また、円板部材17は、爪部材18と対向する面に配置され、周方向に間隔を隔てて形成された複数の凹凸部17aを有している。ここでは、スプール4とスプール軸15との相対回転によって爪部材18の先端が凹凸部17aに当接を繰り返して発音するようになっている。

【0021】

爪部材18は、図3及び図4に示すように、円板部材17方向に進退自在に設けられ、かつ進出方向に付勢され凹凸部17aに当接して発音する部材である。

ここでは、ドラグ機構 6 0 を作動し内筒部材 7 d を回転させると、内筒部材 7 d に装着された爪部材 1 8 が回転し、円板部材 1 7 の凹凸部 1 7 a に当接して発音するようになっている。爪部材 1 8 は、略鉤状形状の金属製部材であり、円板部材 1 7 の凹凸部 1 7 a に当接する爪部 1 8 a と、取付台 1 6 のボス部 1 6 a に装着される装着部 1 8 b と、装着部 1 8 b を挟んで爪部 1 8 a と逆側に設けらればね部材 1 9 が係止される係止部 1 8 c (図 4 参照) とを有している。爪部材 1 8 は、プッシュナット 2 0 c により取付台 1 6 のボス部 1 6 a に固定されている。

【 0 0 2 2 】

ばね部材 1 9 は、図 4 に示すように、一端がねじ部材 2 0 a によって取付台 1 6 に固定され、他端が爪部材 1 8 の係止部 1 8 c に係止されている。ここでは、爪部材 1 8 はばね部材 1 9 によって円板部材 1 7 の回転方向と逆方向に付勢されており、スプール 4 とスプール軸 1 5 との相対回転によって爪部材 1 8 は円板部材 1 7 に当接を繰り返して発音するようになっている。

【 0 0 2 3 】

次に、リールの操作及び動作について詳細に説明する。

キャストイング時には、ロータ 3 を逆転禁止状態にして、手でベールアーム 4 4 を持ってベールアーム 4 4 を糸開放姿勢に反転させる。ベールアーム 4 4 が糸開放姿勢に倒れた状態では、スプール 4 からの釣り糸を容易に繰り出すことが可能である。

【 0 0 2 4 】

キャストイング後に、ベールアーム 4 4 を糸開放姿勢に維持したままの状態、ハンドル 1 を糸巻き取り方向に回転させると、ロータ駆動機構 5 によりロータ 3 が糸巻き取り方向に回転する。ロータ 3 が糸巻き取り方向に回転すると、ベールアーム 4 4 が糸巻き取り姿勢に復帰する。このとき、魚等が強い力で釣り糸を引っ張ると、ドラグ機構 6 0 が作動してスプール 4 がスプール軸 1 5 に対して相対回転する。このようにスプール 4 がスプール軸 1 5 に対して相対回転すると、爪部材 1 8 が円板部材 1 7 に当接を繰り返すことによって発音する。

【 0 0 2 5 】

このような発音機構 7 0 では、鍛造により形成された金属製の糸巻胴部 7 a に

合成樹脂製の取付台 1 6 が装着されている。ここでは、糸巻胴部 7 a に合成樹脂製の取付台 1 6 が装着されているので、従来のようにピン部材を圧入するための厚肉部を糸巻胴部 7 a に設ける必要がなくなる。したがって、スプール 4 を軽量化することができる。

【 0 0 2 6 】

〔他の実施形態〕

(a) 前記実施形態では、糸巻胴部 7 a 及びスカート部 7 b を一体成形していたが、糸巻胴部 7 a を鍛造により形成すれば、糸巻胴部 7 a 及びスカート部 7 b を別体で形成してもよい。

(b) 前記実施形態では、釣り糸係止部 5 0 は、ねじ部材 2 0 d により固定されていたが、たとえばプッシュナット等により固定してもよい。

【 0 0 2 7 】

(c) 前記実施形態では、爪部材 1 8 は、略鉤状形状の金属製部材であったが、これに限定されるものではなく、たとえば弾性力を有する舌状の合成樹脂製部材であってもよい。

【 0 0 2 8 】

【発明の効果】

本発明によれば、鍛造により形成された金属製のスプールに合成樹脂製の取付台が装着されているので、スプールを軽量化できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施形態によるスピニングリールの左側面図。

【図 2】

前記スピニングリールの側面断面図。

【図 3】

前記スピニングリールのスプールの拡大断面図。

【図 4】

前記スプールの発音機構周辺の拡大断面図。

【図 5】

前記発音機構のプッシュナット周辺の拡大断面図。

【図 6】

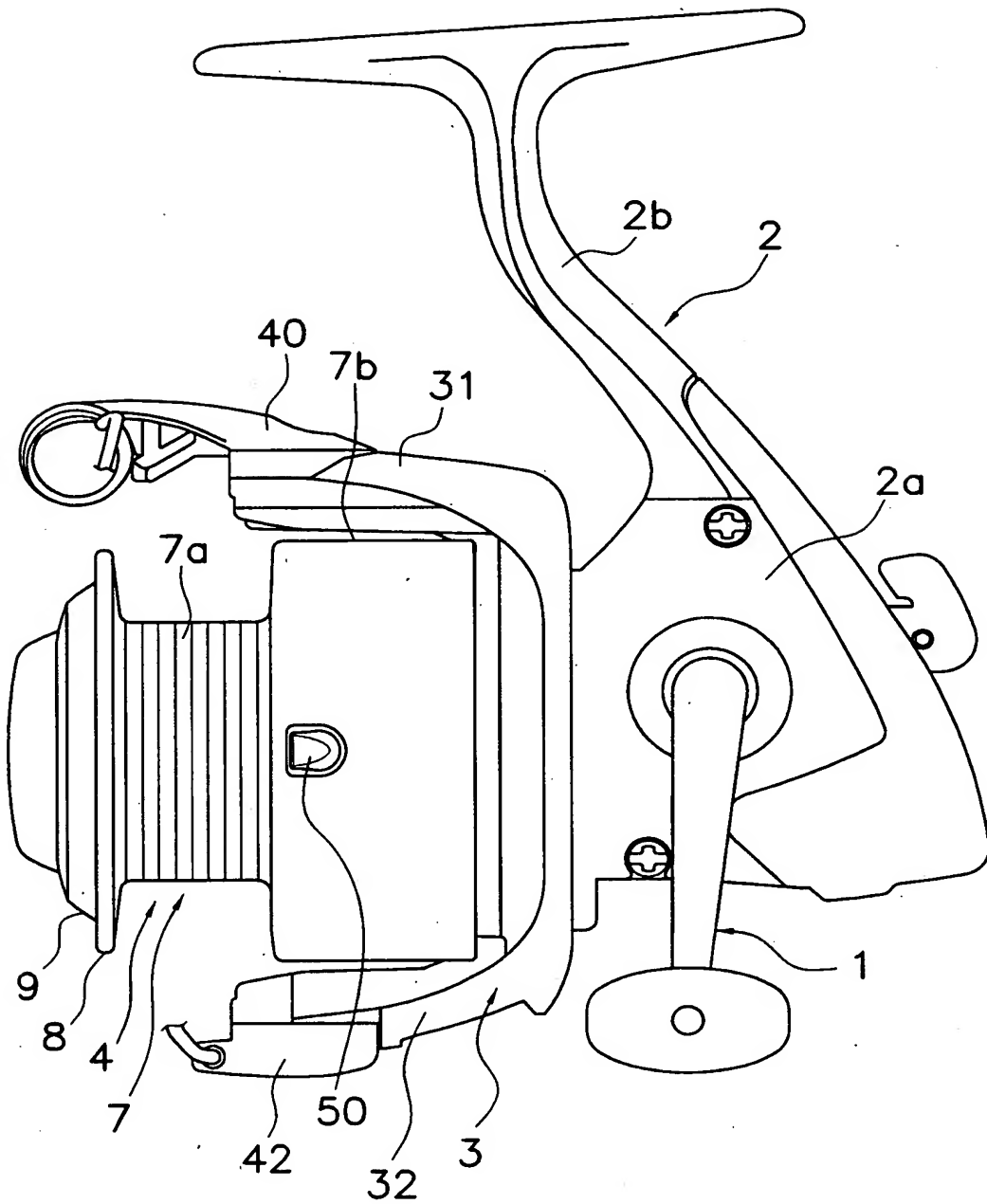
前記発音機構のねじ部材周辺の拡大断面図。

【符号の説明】

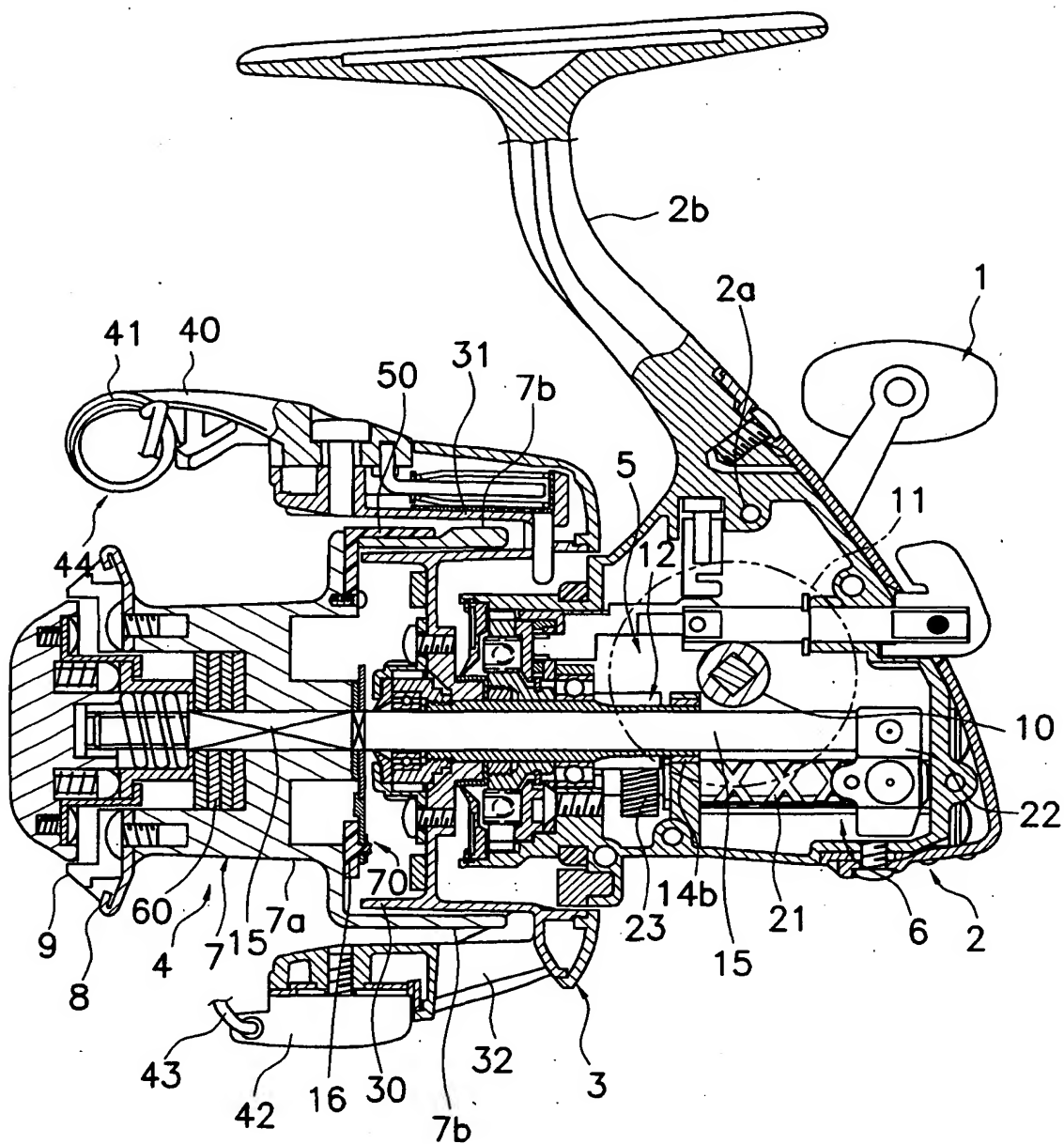
- 4 スプール
- 7 a 糸巻胴部
- 7 b スカート部
- 1 5 スプール軸
- 1 6 取付台
- 1 7 円板部材
- 1 7 a 凹凸部
- 1 8 爪部材
- 1 9 ばね部材
- 7 0 発音機構

【書類名】 図面

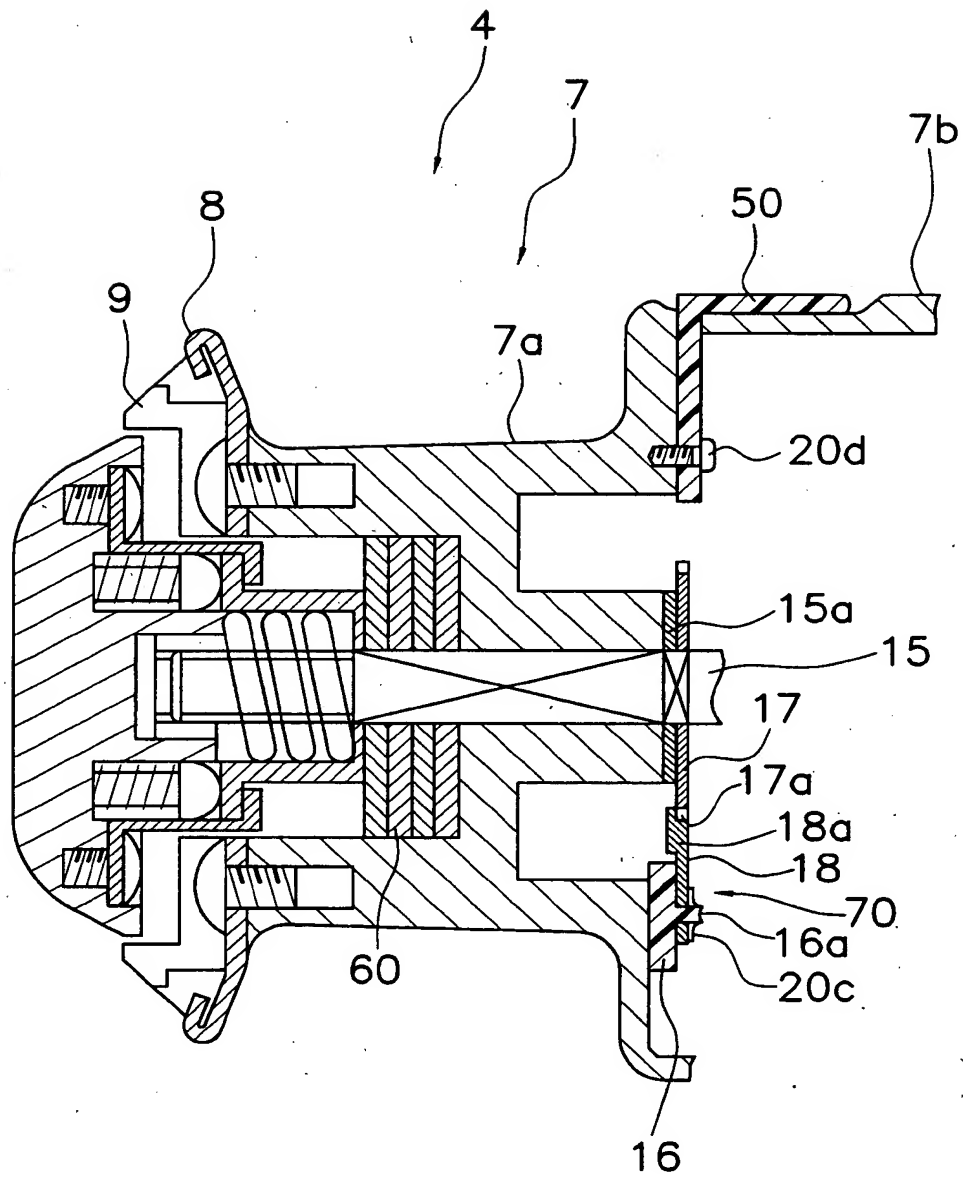
【図 1】



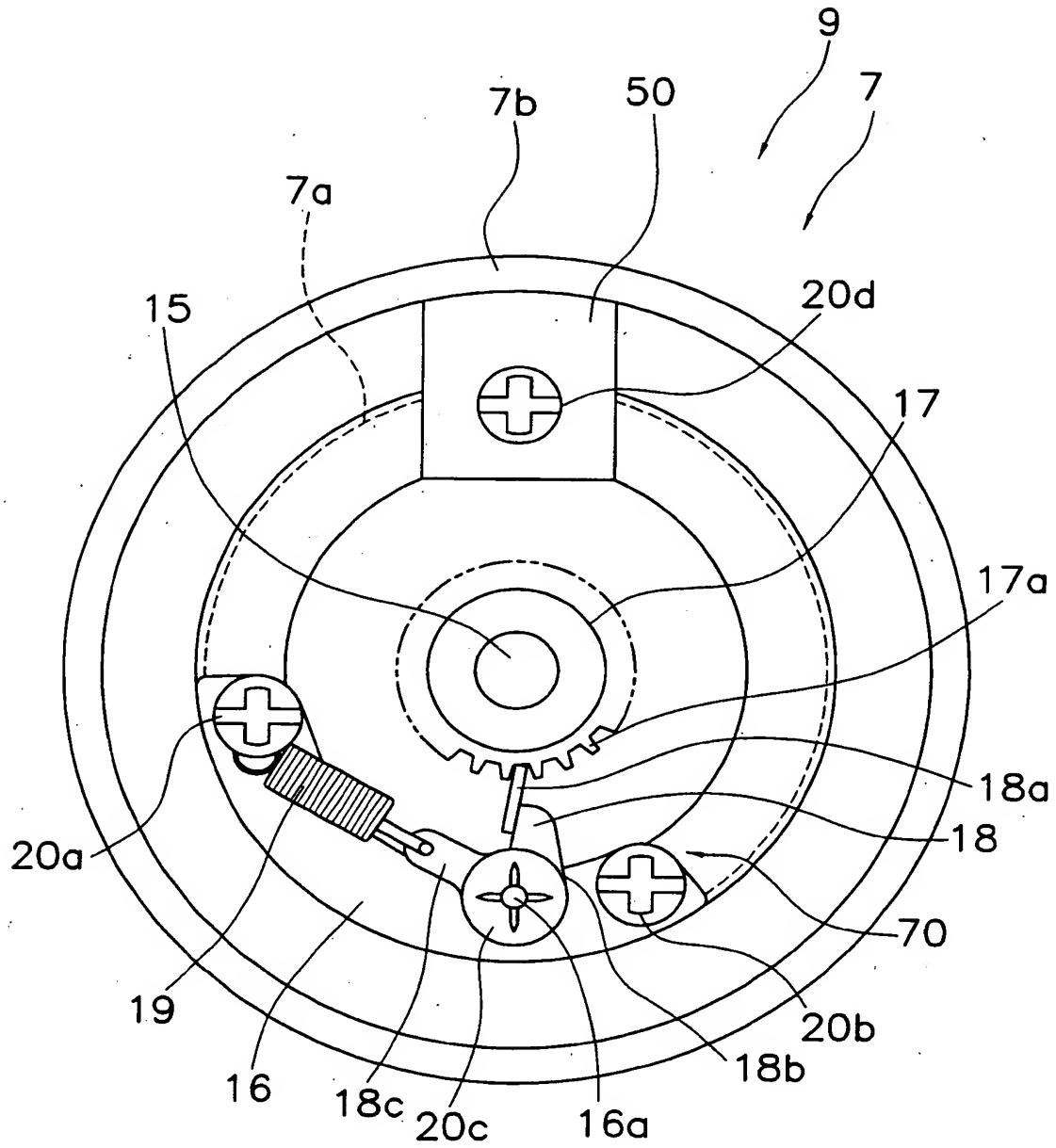
【図 2】



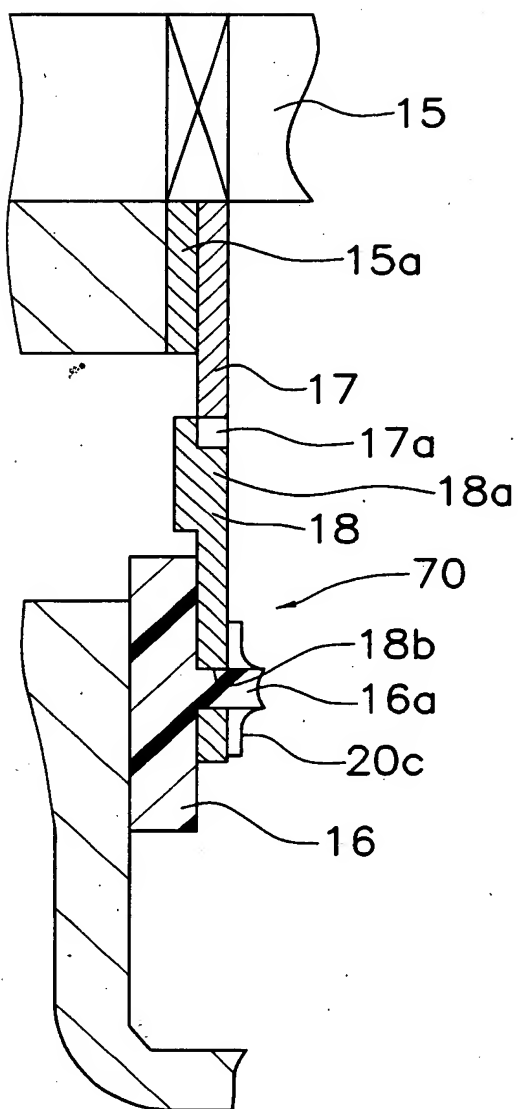
【図 3】



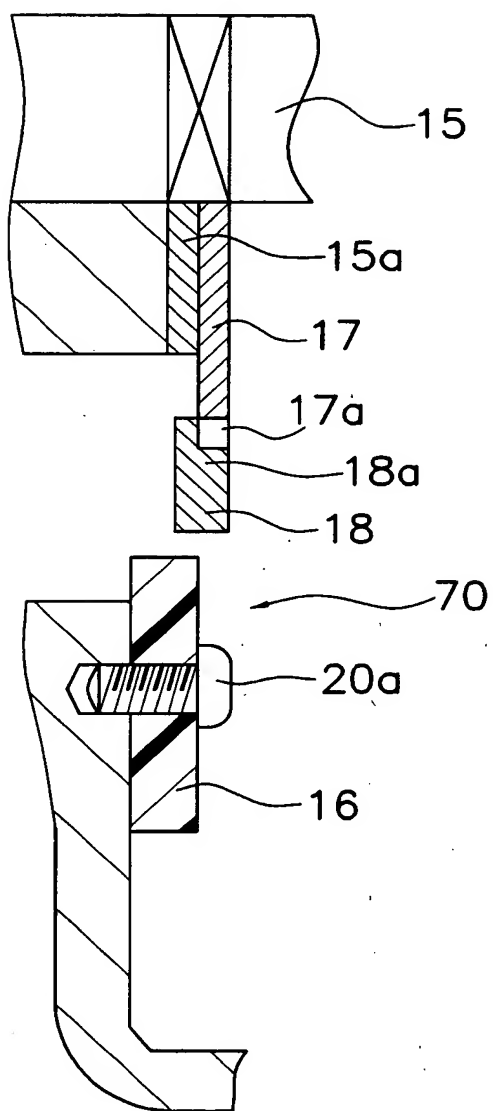
【図4】



【図 5】



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 スピニングリールの発音機構において、スプールを軽量化する。

【解決手段】 発音機構 7 0 は、糸巻胴部 7 a の後端部に装着された合成樹脂製の取付台 1 6 と、糸巻胴部 7 a の後端部にスプール軸 1 5 に回転不能に固定された円板部材 1 7 と、取付台 1 6 に円板部材 1 7 と相対回転可能に装着された爪部材 1 8 と、取付台 1 6 に装着され爪部材 1 8 を円板部材 1 7 側に付勢するばね部材 1 9 とを有している。ここでは、スプール 4 とスプール軸 1 5 との相対回転によって、爪部材 1 8 が円板部材 1 7 に当接して発音している。取付台 1 6 は、合成樹脂製部材であって、糸巻胴部 7 a の後端部にねじ部材 2 0 a、2 0 b によってねじ止め固定されている。

【選択図】 図 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002439]

1. 変更年月日	1991年 4月 2日
[変更理由]	名称変更
住 所	大阪府堺市老松町3丁77番地
氏 名	株式会社シマノ